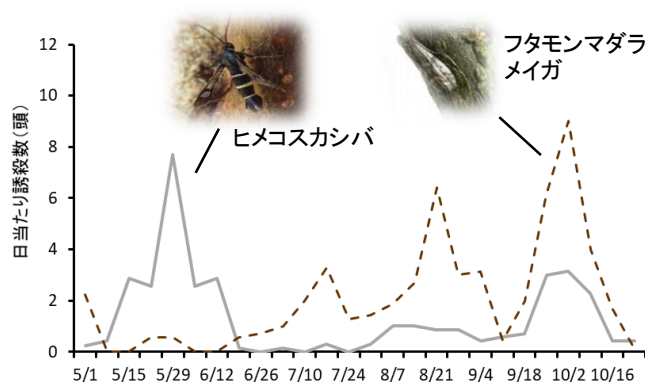


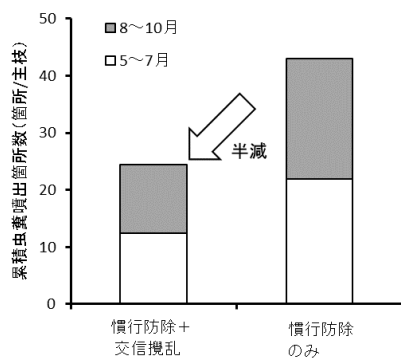
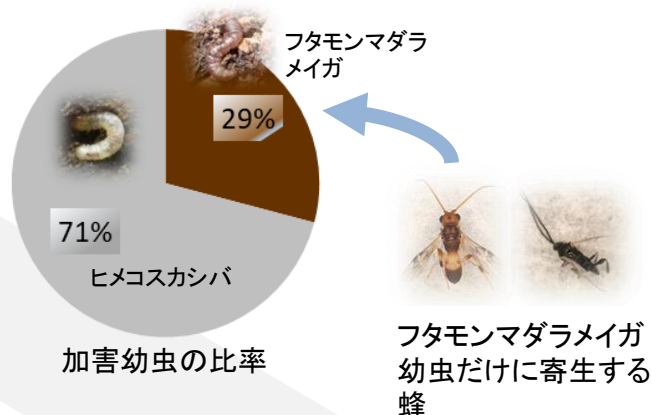
# カキの樹幹害虫対策はヒメコスカシバを中心に体系的に取り組みましょう

カキの樹幹害虫は、ヒメコスカシバとフタモンマダラメイガの2種とされていますが、それぞれの発生時期や加害時期はよく分かっておらず、的確な防除を行うことが困難でした。

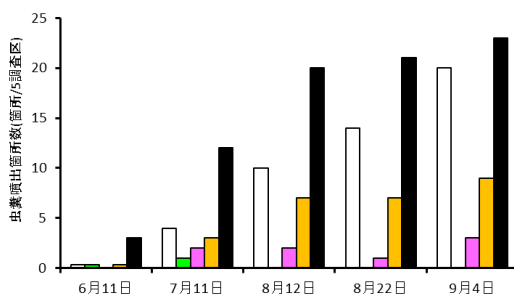
そこで、両種の発生と被害の実態、交信攪乱や殺虫剤散布による防除効果について検討しました。



ヒメコスカシバとフタモンマダラメイガ成虫数の推移



交信攪乱剤(スカシバコンL)の防除効果



- フルベンジアミド×200(4/25)のみ
- フルベンジアミド×200(4/25)+クロラントラニプロール×5000(7/26)
- フルベンジアミド×200(4/25)+フルベンジアミド×4000(7/26)
- フルベンジアミド×200(4/25)+アセタミプリド×2000(7/26)
- 無処理

高濃度少量散布とカキノヘタムシガ防除の組み合わせによる防除効果



対策手引きを作成

## (研究成果)

- ・被害の大半はヒメコスカシバによること、フタモンマダラメイガ幼虫は寄生蜂により大半が死亡することが明らかとなり、ヒメコスカシバのほうが重要度が高いことがわかりました。
- ・交信攪乱剤、高濃度少量散布、通常の殺虫剤散布を組み合わせた体系防除を行うことで、被害を大幅に抑制できることがわかりました。
- ・成果を取りまとめた樹幹害虫対策の手引きを作成しました。